

# 苏州大学

## 2011 年硕士研究生入学考试初试试题 ( A 卷 )

科目代码: 617 科目名称: 综合日语 满分: 150 分

注意: ①认真阅读答题纸上的注意事项; ②所有答案必须写在答题纸上, 写在本试题纸或草稿纸上均无效; ③本试题纸须随答题纸一起装入试题袋中交回!

一、次の漢字に振り仮名をつけよ。(10 点)

五月雨 捺印 流布 縁側 訝る  
祝杯 痛手 座敷 親身 贅沢

二、次の ( ) に最も適当な言葉を入れよ。(5 点)

1. あることばが絶滅するということは、どんな点からみても残念なことである。それは、ことばの一つ一つが、ある集団の、民族的集団 (①)、氏族的集団 (②)、それぞれの生活用具、生産手段である (③)、考え方、生き方、価値観をたくわえた財宝である (④)、さらにこれから先も、いろいろな作品を作り出す力を秘めているからだ。

2. 読者からいただく封書に、筆でしたためたものがある。広げつつ墨跡を追えば、ご用件にかかわらず背筋が伸びる。いわば正装の来客。寝ころんで接する (⑤)。和紙には、触れる者の居ずまいを正す力が宿らしい。

三、最初に示された下線部の意味を考え、最も近い意味で使われているものを選択肢より一つ選べ。(3 点)

1. 彼の腹が分からない

- A. 腹に一物
- B. 腹が痛い
- C. 腹が据わっている
- D. 腹を立てる

2. 絵画に目が利く

- A. 人目を引く格好
- B. お目が高いですね
- C. 見た目が良くない
- D. ひどい目にあう

3. とても信じられることではない

- A. 昔が思いだされる
- B. ご主人様が休まれる
- C. 徒歩でも行かれる

D. 足を踏まれる

四、次の語句の意味として、適切なものはどれか? 一つ選べ。

(10 点)

1. 暖簾に腕押し

- A. 強引に売り込みをすること
- B. 油断していると痛い目にあうこと
- C. 弟子に同じ屋号を名乗ることを許すこと
- D. 相手にまったく反応がないこと

2. 紺屋の白袴

- A. 他人の事で忙しく働き、自分のことをなおざりにすること
- B. 専門外の事をえらそうにあれこれ指導すること
- C. 全く似合っていないのに自分では似合っていると思い込むこと
- D. 新しいものもすぐにダメにしてしまっ無駄の多いこと

3. 気が置けない

- A. 落ち着いて考えることができること
- B. うちとけて接することができること
- C. 落ち着いて考えることができないこと
- D. うちとけて接することができないこと

4. 灯台下暗し

- A. 地味な仕事をする人の性格は暗い
- B. 世の中にないところまるもの、または人のこと
- C. 身近なことにはかえって気がつきにくい
- D. 照明が悪い

5. 出る杭は打たれる

- A. ぬきんでいる者は、とにかく憎まれる
- B. 他人と足並みをそろえない者は、反省すべきである
- C. できの悪い者はしかられやすい。
- D. 打たれるものはよくない

6. 身から出た錆

- A. 長年苦勞したことにより病に倒れること
- B. 身からさびが出るくらい努力すること
- C. 自分のしたことの結果、自分が苦しむこと
- D. 腕が落ちてしまうこと

7. 水に向ける

- A. もりあがっているところをわざわざしらけさせること
- B. 相手の関心を自分のほうに向けさせようとする事
- C. 不正をしたものに対して社会的制裁を与えること

D. 植物に水をやること

8. 梨のつぶて

A. 梨のように大きな石

B. 何の反応もないこと

C. 梨が石になるほど長い間放置しておいたこと

D. 反応があること

9. ぬれ手で栗

A. 苦勞せずに利益を得ること

B. 力がなくても頭を使えばできることがあるということ

C. 都合の良い物が都合の良いときにあらわれること

D. 火中の栗を拾うときはぬれ手の方がやりやすいこと

10. かわいい子には旅をさせよ

A. かわいいと思う自分の子にはいろんなところを見せてあげるべきだということ

B. かわいいと思う自分の子には旅をさせ、苦勞をさせるべきだということ

C. かわいいと思う自分の子には一人で楽しい旅をさせ、好きな物を見つけさせるべきだということ

D. かわいいと思う自分の子には旅をさせてはいけない。

五、次の言葉を日本語で説明しろ。

(10 点)

1. うろ覚え

2. 胆を抜かれる

3. 胸がすく

4. 手持無沙汰

5. 手に余る

五、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(計 38 点)

われわれの心をそそり立て、表現にむかって駆り立てるものは、常に、限定されぬもの、流動するものの領域に属している。相手が無限定であるがゆえに、われわれはそれを限定しようとする。これが芸術的行為のすべてに共通な欲求であり、表現とは限定された手段によってこの無限定性をからめる過程に他ならない。われわれは、この無限定性そのものになることはできないので、無限定な内的現象と、限定的な外的手段との間で、忙しく行為する。その行為が、すなわち芸術と人の呼びならわしているものにほかならない。

(1)「見えないものを見えるようにする」というのは、クレーの有名な言葉だが、この言葉の意味している行為の内容も、次に言ったようなことにほかならないだろう。

しかし、この言葉を引くなら、ただちに、これに対置すべきもう一つの言葉をここに記さねばならない。つまり(2)「                    」という言葉。この二つの言葉は、結局同じことを言っているのだが、芸術的行為を単に「見えないもの」の可視的対象化という側面だけに限って眺めることは、かたて落ちだと思われる。目に見えるものが絶えず見えないものに転化してゆくを感じるときこそ、われわれの芸術的衝動は最も活性化するのであって、製作行為の大きな部分を占めるのも、この、見えるものが見えないものに転じてゆく過程の人工的産出という作業にほかならない。

芸術とは、さきにも書いたように、無限定な内的現象と、限定的な外的手段とのあいだで忙しく行為することにほかならないが、見えないものも見えるものも、このあいだの空間にあって(3)相対化さ

れており、芸術的行為にとっては、両者はつねに交換可能なのである。それとも、見えないものを見えるようにするという行為も、見えないものが、すでに、ある種の直感的視線によって見られているからこそ成り立つのであって、まるっきり見えないものを見えるようにするということはありません。

見えていて同時に見えないもの、それが人間の視野にある一切の事物、事象の本質的性格である。われわれは、芸術的行為において最も明瞭に、事物・事象のこのような性格と(a)コウショウをもつ。すなわち、世界はわれわれにとって、つねに、見えていて同時に見えないものでありつづける。われわれがこの(4)古ぼけた世界にしばらくつけられながら、倦怠のあまり化石することもなしに何とか暮らしていくのも、世界自体が、われわれの視野の下で(5)かくれんぼをくりかえしているからではないか。

芸術作品が本質的な意味で記号であり信号であるというのも、そのためである。芸術家は、外的な表現手段によって内的無限性をからめようとするが、作品は表現手段の限定性ゆえに、決して無限そのものにはなりえないところの、一個の記号であり、信号であるほかない。だが、それは、記号であり信号であることによって、限定的なものと無限定なものと双方に同時に接している。そこで始めて、作品は、(6)一個の「もの」であると同時に「比喩」であるところの、偉大な流動体となるのである。作品を(b)パイカイとする交信というものが、現実にも可能になるのも、これに基づいている。われわれがある絵なり(c)チョウコクなりを見て、身内に音楽が湧き、あるいは言葉が湧くを感じるのも、この交信が現実にも生じているからほかならない。

このような状態を可能にするための画家にとっての条件は、当然次のような点に求められるだろう。すなわち、無限定な外的現象と、限定された外的手段とのあいだでくりひろげられる行為の(d)シンブクが大きく、かつ多忙であればあるほど、われわれが作品を通じて感じる世界は、複雑かつ豊富になる。これは言い換えれば、内的現象と外的手段との距離が、遠ければ遠いほどよいということである。

問一 傍線部(a)から(d)のカタカナを漢字に改めよ。

(4 点)

問二 傍線部の(1)クレーの言葉の「見えないもの」に当たるものを、この筆者はどのような言葉を用いて表しているか、これより前の部分からそれに当たる言葉をすべて書き出せ。

(4 点)

問三 傍線部(2)の「                    」の中に入れるべき言葉を考えて書け。

(2 点)

問四 傍線部(3)「相対化」とはここではどういうことであるか、分りやすく説明せよ。

(8 点)

問五 傍線部(4)「古ぼけた世界」とはどういう世界であるか、分りやすく説明せよ。

(6 点)

問六 傍線部(5)「かくれんぼをくりかえしている」は、何と何とがどのような関係にあることなのか、説明せよ。

(6 点)

問七 傍線部(6)はどういうことであるか、筆者が「者」と「比喩」とに「                    」をつけている点に注意して、分りやすく説明せよ。

(8 点)

六、次の文の下線                    部分に各時代の文学作品名、作者名、文学のジャンルなどそれぞれ埋めよ。

(10 点)

1. 奈良時代、集団的な歌謡ばかりではなく、個性的な叙情詩も収めた「                    」が成る。

2. 「保元物語」「平治物語」「平家物語」は代表的な                    物語である。

3. 江戸前期、俳諧の分野では、山崎宗鑑らの俳諧連歌から貞門・\_\_\_\_\_俳諧、そして松尾芭蕉の蕉風俳諧へと展開する。
4. 坪内逍遙の「\_\_\_\_\_」によって近代文学は始まる。
5. 田山花袋の「蒲団」は個人の内面を告白する「\_\_\_\_\_」というスタイルを生んだ。
6. 大正後期・昭和初期から現在に至るまでの文学は\_\_\_\_\_文学と呼ばれる。
7. 昭和八年、太宰治は古谷綱武・今官一らと「\_\_\_\_\_」を刊行した。
8. 昭和三年、井伏鱒二は「三田文学」に「\_\_\_\_\_」を発表した。
9. 谷崎潤一郎は東大在学中第二次「\_\_\_\_\_」に参加した。
10. 昭和四十年代になり、日常生活の内面を深く見つめようとする「\_\_\_\_\_」の作家には、古井由吉・阿部昭・小川国夫などがあつた。

七、次の文をよく読んで後の問に答えよ。(計 37 点)

①祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。②娑羅双樹の花の色、盛者必衰のこたわりをあらわす。③おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。けたき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の祿山、これらはみな旧主先皇の政にも従わず、楽しみをきはめ、諫めをも思ひいれず、天下の④乱れむことを悟らずして、民間の憂ふるところを⑤知らざりしかば、久しからずして、⑥亡じにし者どもなり。近く本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信頼、おごれる心もたけきことも、みなとりどりにありしかども、まちかくは、六波羅の入道前の太政大臣平朝臣清盛公と申しし人のありさま、伝へ承るこそ心もことばも⑦及ばれぬ。

問一、例に倣って、下線\_\_\_\_\_⑦～⑩の各語群にそれぞれ文法説明をし。(15 点)

例： 雇はるる 雇は 四段活用動詞「雇ふ」の未然形  
るる 受身、可能助動詞「る」の連体形

問二、問題文の作者名と作品名をそれぞれ書け。(2 点)

問三、問題文の意味により、三段落に分けられるが、第二、三段落の最初の四文字を抜き出せ。(2 点)

問四、下線\_\_\_\_\_①～②の文が意味から見れば、同じ内容の反復となっており、どういう働きがあるか、どういう修辞法を使っているか、それぞれ日本語で二文字で説明しろ。(2 点)

問五、問題文では異朝や本朝の人々の事例を通して、読者に何を教えようとしているのか、日本語で簡潔に説明しろ。(6 点)

問六、問題文を現代日本語に翻訳しろ。(10 点)

八、次の文章を読んで後の問に答えよ。(計 27 点)

子供の絵本に描かれてあつた老婆のように、母親は髪こそ白いが、①ツヤツヤとした肌と②シワ一つない若々しい顔を持っていた。私は③暫く言葉もなく、その母の顔を見守っていた。④生来老人嫌いの母であつたが、今や彼女自身年齢から言えればきとした老人であつた。私は、⑤自分の老齢を意識し、それに反抗しようとした、⑥そんな母が哀れに思われた。

⑦信濃の姨捨というところが、私に⑧妙に気になり出したのはそれからのことである。

私はその頃から仕事の関係で旅行する機会が多くなり、信濃方面にも年に何回となく出掛けるようになったが、⑨中央線を利用する時は、丘陵の中腹にある姨捨という小駅を通過する度に、そこから⑩一望のもとに見降ろせる善光寺平や、その平原を蛇の腹のような冷たい光を見せながらその名の如く曲りくねって流れている千曲川を、⑪他の場所の風景のように無心には眺めることができなかった。また⑫信越線に依る時は、列車が逆に中央線から眺め渡した低い平原の一部を走るので、⑬戸倉駅附近になると、窓越しに、僅かに屋根の赤さでその存在を示している姨捨駅を対かい合っている丘陵の斜面に探し出し、その附近一帯を、あの辺りが姨捨なのかといった一種の⑭感懐をもって、眺め渡すのが常であつた。

勿論、私は観月の場所としての姨捨には殆ど関心らしい関心は持っていなかった。信濃の清澄な空気を透して、千曲川、犀川を包含した、萬頃一碧の広野に照り渡る月の眺めはなるほど壮観ではあるうと思つたが、戦時中「満洲」の荒涼たる原野に照る月を眺めた私には、姨捨の月がそれ⑮に勝るものであらうとは思われなかった。

問 1、下線部⑨～⑫の語群の漢字には読み仮名を、カタカナには漢字を当てよ。(6 点)

⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

問 2、下線部①から見た母の性格はどんなものか、あたるものを選べ。(2 点)

A わがまま B 恣意的 C 腕白  
D 負けん気 E 気丈 F 計算深い

問 3、下線部②から見た母の性質はどんなものか、あたるものを選べ。(2 点)

A あきらめが悪い B あきらめがいい  
C 反抗的 D もめごとが好き  
E 理屈っぽい F 物分りが悪い

問 4、下線部③から作者の母に対する気持ちとしてあたるものを一つ選べ。(1 点)

A あざわらう B かなしむ  
C さげすむ D 同情する

問 5、下線部④「妙に」の意味として、あたるものを一つ選べ。(1 点)

A 巧妙に B 奇妙に  
C 変に D 精巧に

問 6、下線部⑤⑦の地理的な位置はどちらが高いか、答えよ。(1 点)

A 中央線 B 信越線

問 7、下線部⑥の理由としてあたるものを一つ選べ。(1 点)

A すきだから B 風景に関心があるから  
C 風景に無関心だから D ゆかりのある地だから

問 8、下線部⑧の「戸倉駅」は何線にあるか、答えよ。(1 点)

A 中央線 B 信越線

問 9、下線部⑦の言葉を用いて、短文を一つ作れ。(4 点)

問 10「私はその頃から」から「常であつた。」までの文を中国語に翻訳せよ。(8 点)